○研　究　内　容

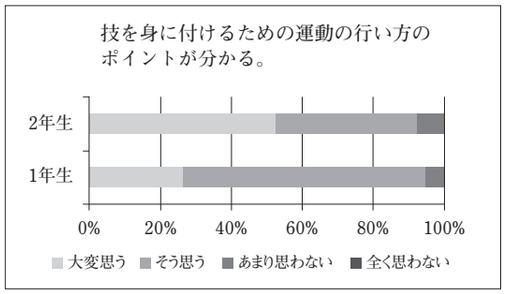
【2 年生の授業風景】
打ち返しによる基本動作の学習

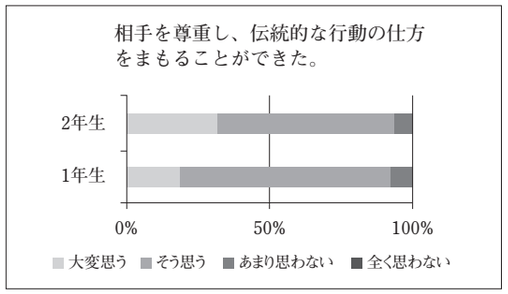
【1 年生の授業風景】
武道の精神、礼法について丁寧に指導

【リズムなぎなた】
個人の動きから集団の動きにつなげる。

【試合形式の演技】
身に付けた基本動作を活用しての試合

【なぎなたについてのアンケート（授業後）】1、２年生対象
外部指導者の活用により、武道の精神や礼法の重要性、技のポイントや行い方が理解できた。





【実践校としての成果と課題】
成果の分析や生徒の感想から

１年生は基本動作の習得、２年生は攻防中心の指導計画にしたことで、身に付けさせたい内容が明確になった。外部指導者の技能面の指導も生徒にとって具体的で分かりやすかったようである。特に、継続した外部指導者が、毎年、１年時の最初に礼法について丁寧に指導していることで、２年間の武道学習が生徒にとって大変有意義なものとなっていると考える。保健体育科教員にとっても、指導力を高めるいい機会となっている。今後も、なぎなたを本校の伝統として、生徒に自覚させ、継続させていきたい。

【授業後の生徒の感想】
・簡易試合（攻防）が多く、技の多さや動きの難しさを体験することができました。
・模範演技や模範試合をしていただき技の練習に大変参考になりました。
・文化祭での発表により、地域の方々にもなぎなたのよさを伝えることができました。

武道授業　実践の概要紹介

日置市における武道授業の実践紹介

日置市教育委員会

本市は、鹿児島県の西部、薩摩半島のほぼ中央に位置し、西は日本三大砂丘の一つ、白砂青松の吹上浜と東シナ海に面している。妙円寺詣りや流鏑馬、せっぺとべに代表される歴史的な伝統行事と薩摩焼や優れた泉質を誇る温泉など、古の情緒と安らぎに満ちた貴重な資源を数多く有している。

本市で開催される鹿児島三大行事の一つである妙円寺詣り行事大会では、柔道・相撲・剣道・弓道・空手・銃剣道の各大会が行われ、大汝牟遅神社では、毎年「流鏑馬」が行われるなど、市民が武道に親しむ機会は多い。

本年度から、三つの事業「ひおきふるさと教育」、「のびゆくひおきっ子Ⅱ」、「チェスト行けひおきっ子Ⅱ」を柱とした小中一貫教育を開始している。「ひおきふるさと教育」では、市の歴史や文化、自然や産業等について、各学校で特色ある学習を展開しており、居合道を通じて礼儀作法を学んでいる小学校もある。

大汝牟遅神社の流鏑馬

1　日置市の教育について

【おひさま運動　実践項目】

お　はようの声ひびく　思いやり育てる　やさしいまち
【 礼 節 】おはよう・こんにちは・いただきます・ありがとう・すみません

ひ　ろげよう読書　感動あふれる　学びのまち
【文武の文】本をひろげる・活動をひろげる・推薦図書の読破・利用カードの作成

さ　わやかな汗　心と体きたえる　健康なまち
【文武の武】スポーツ・文化活動・ボランティア・地域活動・健康づくり・すすんで健診

ま　もろうきまり　みんなでつくる　安全なまち
【き ま り】交通のきまり（飛び出し注意、交通ルールを守る）・生活のきまり

◇一人一人の心がけで日置市におひさま運動の風を起こしましょう◇

日置市は、「夢をもち　あしたをひらく　心豊かな人づくり」をめざし、郷土の教育的な伝統や風土を生かした「風格ある教育」を推進している。

本年度より始まった小中一貫教育は、三つの柱である「ひおきふるさと教育」の「徳」、「のびゆくひおきっ子Ⅱ」の「知」、「チェスト行けひおきっ子Ⅱ」の「体」を育む内容となっている。

また、おひさま運動も展開している。「お」は礼節を、「ひ」は文武の文を、「さ」は文武の武を、「ま」は決まりを表しており、各学校はもとより、各種研修会等の冒頭で、おひさま運動の唱和を実践している。

市内の小学校では、居合道を通して礼儀作法を学ぶ

2　市内中学校での武道授業の実践

東市来中学校は、特別支援学級を含む10学級265人の学校である。

(1)日置市立東市来中学校

ア　学校について

剣道部と柔道部があり、柔道部は、今年度個人種目で県大会に出場している。

イ　武道の授業について

各学年において男女とも剣道を3学期に12時間学習している。体育館で実施しており、防具も竹刀も学校備品となっている。

剣道の授業の様子

柔道の授業の様子

(2)日置市立上市来中学校

ア　学校について

上市来中学校は、3学級30人の学校で剣道部がある。

イ　武道の授業について

各学年において、男女とも剣道を3学期に10時間学習している。体育館で実施しており、防具も竹刀も学校備品となっている。

(3)日置市立伊集院中学校

ア　学校について

伊集院中学校は、14学級449人の学校である。剣道部と柔道部があり、剣道部は、今年度県大会で4位、柔道は、個人で県大会で優勝し、全国大会に出場している。

イ　武道の授業について

全学年柔道の授業を行っており、1年生は12時間、2・3年生は10時間学習している。常時、畳が設置されている武道場があり、柔道着は個人で準備している。

(4)日置市立伊集院北中学校

ア　学校について

伊集院北中学校は、9学級262人の学校である。剣道部がある。

イ　武道の授業について

全学年柔道の授業を行っており、1・2年生は11時間、3年生は16時間学習している。武道館があるものの、通常は卓球部が使用している。柔道の授業の際は、畳枠止めを利用し畳を敷き詰める。柔道着は個人で準備している。

(5)日置市立土橋中学校

ア　学校について

土橋中学校は、3学級32人の学校である。

イ　武道の授業について

全学年柔道を、各学年9時間ずつ学習している。体育館に、畳枠止めやクッションマットを活用し畳を敷き詰めて行っている。柔道着は個人で準備している。

(6)日置市立日吉中学校

ア　学校について

日吉中学校は、４学級109人の学校で、剣道部と柔道部があり、今年度、剣道部は県大会に出場している。

イ　武道の授業について

全学年柔道の授業を行っており、１・２年生は12時間、３年生は10時間学習している。学校に隣接している市の武道場で行っており、柔道着は個人で準備している。

(7)日置市立吹上中学校

ア　学校について

吹上中学校は、６学級161人の学校である。剣道部、柔道、弓道部がある。三つの部とも、今年度県大会に出場しており、柔道部は、個人３位、団体ベスト４の成績を収めている。

イ　武道の授業について

全学年柔道の授業を行っており、１・２年生は10時間、３年生は９時間学習している。畳常設の武道場で行っており、柔道着は個人で準備している。

3　安全への配慮について

(1)礼儀作法指導の徹底

「武道は礼に始まり礼に終わる」と言われるように、武道授業では礼を重んじ、作法は厳格に執り行われている。礼儀作法を学び、相手を尊重する気持ちを養うことは、危険な行為を防ぐことにつながるため、剣道、柔道ともに礼儀作法を重視して指導を行っている。

授業における安全確認のポイント

○室温、湿度は、活動に適切か。（熱中症対策）

○活動場所や周辺に危険な物や不要な物が置かれていないか。

○活動前後、活動中に生徒の観察をするとともに、不調を感じたら、すぐ申し出るよう指導したか。（健康観察）

○「礼法」を重視し、相手を尊重したり、安全への意識を高める指導をしているか。

○危険な動作や禁じ技について、毎時、確認しているか。

○発生しやすいけがや事故について、生徒に理解させているか。

○生徒同士がぶつからないよう、場の工夫をしているか。

○運動経験、技能レベル、体重、体格等に配慮した指導をしているか。

○緊急時の対応について、「事故防止マニュアル」が準備されているか。

(2)禁止技の確認

剣道では「突き」、柔道では「背負い投げ」「大外刈り」を禁止技としている。熟練していない禁止技やふざけた行いは、重大な事故につながることを理解させ、特に緊張感をもち、メリハリのある授業を展開するよう心がけている。

(3)指導計画の見直し

３年間を見通し、学習段階や個人差を踏まえ、段階的な指導を行うなど安全確保に十分に留意した計画となっているかという視点で、毎年指導計画の見直しを行っている。

4　指導のあり方について

(1)「礼法」を特に重要視し、その形式に従うことで、自己を制御するとともに相手を尊重する態度を形に表す。

(2)生徒の意欲を高め、確実に技能を高めるために、基本練習を反復するとともに、基本となる技にも早めに取り組ませる。

(3)ゲーム的な練習を取り入れたり、基本となる技につながる準備運動を取り入れたりし、楽しんで技能を身に付けさせる。

(4)安全に配慮しながら、基本となる技を用いて自由練習やルールを簡略化した簡単な試合を取り入れる。

(5)効果的に学習が進められるように、学習カードやＤＶＤ、ＩＣＴ機器を活用する。

5　おわりに

武道指導においては、安全面への配慮を最重要視しながら、武道の伝統的な礼儀作法や考え方を理解させ、相手を尊重する心を育てることに力を入れた指導を行っている。

本市で保健体育を指導している教員の中には、段位を習得していなかったり、保健体育専門ではないため臨時免許を取得して指導していたりする現状がある。県教委が主催する「武道・ダンス指導者研修会」や「柔道授業の安全に関する指導者研修会」へ積極的に参加したり、授業実践を進めながら指導力を高めたりしていきたい。

柔道の受け身の練習